令和８年度第４回神奈川県県土整備局公共事業評価委員会　議事録

日時：令和８年 10 月 27 日（火）14:30～16:45
場所：神奈川県庁新庁舎 12 階　県土整備局大会議室
出席委員：真田　純子【委員長】
中村　英夫【副委員長】
高橋　陽子
田邉　勝巳
知花　武佳
中村　幸人
松行　美帆子
審議内容：審議資料の修正
①都市計画道路丸子中山茅ヶ崎線 街路整備事業（再評価）
②県道 46 号相模原茅ケ崎（上郷立体）道路改良事業（再評価）
③都市計画道路座間南林間線 街路整備事業（再評価）
④県道 611 号大山板戸（大山バイパス）道路改良事業（事後評価）
⑤浜見平地区 住宅市街地総合整備事業（再評価）

審議結果：
［審議資料の修正］
＜①～⑤の各事業実施課より審議資料の修正概要を説明＞
松行委員
⑤浜見平地区のジェントリフィケーション対応に関して、前回の委員会では、長い期間をかけて新規入居者の募集を停止したことを聞いた。
海外では、従前居住者を追い出すようなことを行っているため批判があるが、本事業は、従前居住者が自然に転出するのを待っており、その分家賃収入が減って痛いところではあるが、ジェントリフィケーション対応としてあえてやったことなので、丁寧に記載した方がよい。

茅ヶ崎市
複数棟の建物を段階的に整備しながら、戻り入居の希望者をアンケートにより調査し、戻り入居者を取りこぼすことないよう事業を進めている。ちなみに、約 61%が戻り入居として残っている状況。審議資料はもう少し工夫して追記する。

真田委員長
④大山バイパスの対応方針（案）で、現道部の路面標示と更なる安全対策の推進について

追記いただいた。
　バイパス整備によって、通過交通はバイパスを通るようになり、現道部は集落の道として使えるようになったことで、現道部の役割が変わった。その役割を強化する手段として、アスファルトではなく、例えばカラー舗装などで歩行者を優先することができるのではないか、という意図で指摘したもの。道路の役割が変わったことで、新しい役割をもっと強化するよう整備することが伝わる記載としたほうがよいと思う。

道路整備課
　バイパス整備により、現道部の通過交通が排除され、役割分担が図られたため、委員ご指摘のとおり、その役割を一層強化する取組みについて記載するよう、表現を工夫させていただく。

真田委員長
　審議資料は、県民とのコミュニケーションとして、今どのような事業をやっていて、将来のことをどのように考えているか、などを伝える資料でもある。
　それらが正しく伝わるような表現になっていることがよいと思うため、そういう視点で見たときに、こうした方がよいなどの意見があれば、ぜひおっしゃっていただきたい。

高橋委員
　⑤浜見平地区については、総合的な効果について、かなり丁寧に記載いただけたし、写真までつけていただけたことによって、丁寧にまちづくりをされていることが伝わる。事業が身近に感じられる良い事例なのではないかと思う。

真田委員長
　今回指摘いただいたところを修正していただき、その修正をもって、了承としたいと思う。

以上